

○ 史跡こうもり塚古墳

- (1) 所在地 総社市上林^{かんばやし}1167 番地 外 13 筆 (追加指定地)
- (2) 指定年月日 昭和 43 年 2 月 15 日 文化財保護委員会告示第 5 号
- (3) 指定地面積 追加指定地面積 5,916.00 m²
既指定地面積 7,647.00 m²
合 計 13,563.00 m²
- (4) 所有関係 県有地
- (5) 概要

史跡こうもり塚古墳は、総社平野の東に広がる三須^{みす}丘陵南西部に位置する。史跡備中国分寺跡・史跡備中国分尼寺跡のほぼ中間に位置し、周辺一帯が吉備路風土記の丘県立自然公園特別地域となっている。墳長は約 96m を測り、古墳時代後期 (6 世紀) における吉備最大の前方後円墳である。全国有数の規模を誇る巨大な横穴式石室 (全長 19.9m) を有し、吉備独自の石材である浪形石^{なみがたいし} (貝殻石灰岩) 製の家形石棺や装飾大刀をはじめとする豊富な副葬品を持つ。史跡^{やた}箭田大塚古墳・史跡^{むき}牟佐大塚古墳とならぶ吉備地方における代表的な巨大石室墳であり、学術上の価値が高い。このような内容から、昭和 43 年 2 月に隣接する備中国分寺跡とともに史跡に指定され現在に至る。

(6) 追加指定

追加指定地は、史跡こうもり塚古墳の後円部西側から前方部南側にかけての丘陵裾部、及び前方部北東に位置する丘陵部分である。岡山県教育委員会では、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業の一環として、史跡こうもり塚古墳保存活用総合調査事業を立ち上げ、令和 2 年度から地形測量等を実施、令和 3・4 年度には、墳丘周辺について確認調査を実施した。その結果、古墳を取り巻くように盾形に整形された地形や、前方部の成形時に丘陵から切り離された部分が明らかになった。以上から、追加指定対象地は古墳の構造や構築方法を考える上で欠かせない部分であるため、史跡として既指定地と一体的に保護・活用を図る。



こうもり塚古墳位置図



こうもり塚古墳範囲図（赤：追加指定範囲、青：既指定範囲）



追加指定地写真（南上空から）



追加指定地写真（北東から）